

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	救助工作車搭載クレーンの操作訓練時におけるワイヤー断裂事故
3. 体験した事例の中心的要素	荷重の掛かっていない状態でフックの取り出し作業を行っていた時に、ワイヤーが切断する事故が起きることを、当事者及び周囲の隊員も予見できなかった。よって、正常に作動しなかったクレーンのブームを監視する為、作業範囲内に隊員が残ったまま操作し、ワイヤーを切断する事故が起きた。結論として、切断したワイヤーの飛ぶ範囲が、隊員に危害を及ぼすものではなかったが、切断箇所が異なったり、隊員の位置次第では重大な事故が起こる可能性があった。
4. 体験した事例の原因・理由	ワイヤーの巻き方やキンクの出来具合を把握できていなかった。クレーンの特性など、機械器具の構造を熟知していなかった。作業範囲内に監視の隊員を立ち入らせたまま操作した。

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 20 年 6 月 28 日 午後 2 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：消防署車庫前駐車場
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：切断したワイヤー及びフックが、他の隊員に衝突する等の危害を加える可能性があった。
7. 事例体験時の活動	その他： []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：救助工作車搭載クレーン操作訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[33]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[10] 年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [機関員]
○当事者 B	年齢[28]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[10]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[29]歳、 勤続年数[9]年、 現場経験年数[9]年、 階級[消防副士長]、 同様の活動 [1 年に数度]、 任務 [機関員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 B	クレーンの操作訓練を実施した。	ラジコン操作
経過 2	当事者 C	当事者 B に続いて操作訓練を実施した。	ラジコン操作
経過 3	当事者 A	当事者 C に続いて操作訓練を実施した。	ラジコン操作
経過 4	当事者 A	フック取出操作が正常に作動しなかった。	ラジコン操作
経過 5	当事者 A	取出操作と格納操作を 2 回繰り返した。	ラジコン操作
経過 6	当事者 A	3 回目の取出操作時にワイヤーが断裂した。	ラジコン操作
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他：切れたワイヤー及びフックが隊員に当たらない範囲で動いた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	はい
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

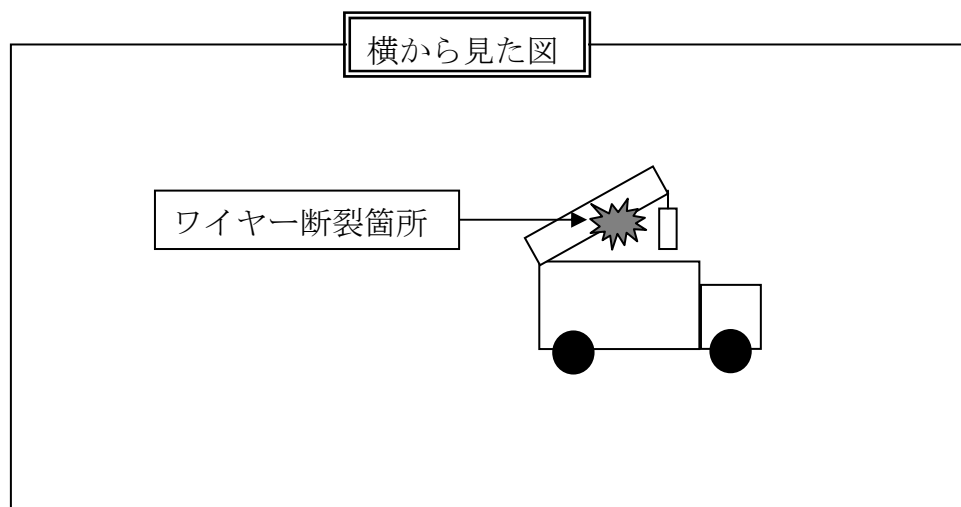
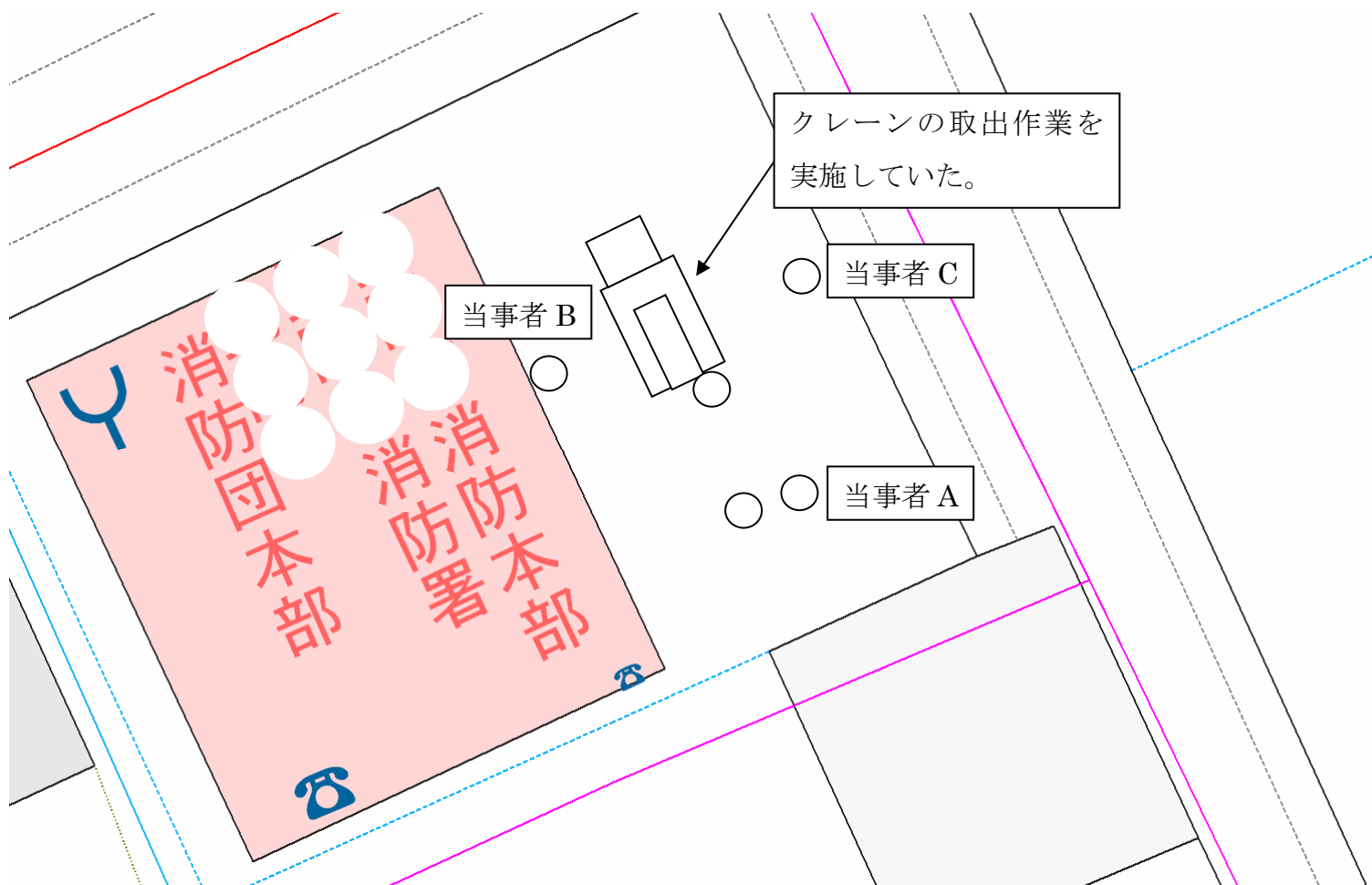
○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

ワイヤー断裂事故状況図面



・発生日時：平成20年6月28日 午後14時頃

経過	現場の状況	隊員A(機関員)	隊員B(機関員)	隊員C(機関員)	備考
		機関員／消防副士長 ・年齢 33 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動:1年に数度	機関員／消防副士長 ・年齢 28 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動:1年に数度	機関員／消防副士長 ・年齢 29 歳 ・勤続 9 年 ・現場 9 年 ・同様の活動:1年に数度	
救助工作車搭載クレーンの操作訓練 消防署車庫前駐車場 救助工作車搭載クレーンの操作訓練を実施した。 当事者Bに続いて操作訓練を実施した。 当事者Cに続いて操作訓練を実施した。 作業範囲内から退避せず フック取出操作が正常に作動しなかった。 取出操作と格納操作を2回繰り返した。 3回目の取出操作を開始した。 3回目の取出操作時にワイヤーが断裂した。 ワイヤーが隊員に接触する可能性があった ワイヤーが切断する事故が起きることを、当事者及び周囲の隊員も予見できなかった。 ワイヤーの巻き方やキンクの出来具合を把握できていなかった。また、クレーンの特性など、機械器具の構造を熟知していなかった。					

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因：状況判断に問題があった。 ・切れたワイヤー及びフックが隊員に当たらない範囲で動いた。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (装備・資機材について) ・装備・資機材自体に問題があった。